

次号予告

とびら

R. R. P. T. を考えよう..... 甲州中央温泉病院 藤本 欽也

特集＝臨床記録

臨床記録―その本質と実際―九州労災病院 中山彰一, 他
リハビリテーション学院 田村美枝子

東大病院 宮前 珠子

九州リハ大 高田 幸

コンピューターによるコード式記録法の紹介..... 元東大病院 福屋 靖子

座談会／臨床記録をめぐる..... 東大病院 鎌倉矩子, 他

講座

筋神経の生理学 (7)..... 九州リハ大 和才 嘉昭

研究と報告

中宮病院における作業療法の現況と原価計算について..... 中宮病院 時武治雄, 他

運動浴が身体に及ぼす浮力..... 東洋工業附属病院 片山哲志, 他

症例の検討と反省

鞭打ち症, 症例の検討と反省..... 湯の児病院 池辺 正治

英語講座

ADL 評価 (II)..... 都養育院 荻島 秀男

今日の精神科作業療法

対談／行動科学からみた精神科作業療法..... 東大精神科 台 弘, 他

資料

理学療法従事者の基準..... 都養育院 松村 秩

編集後記

今月は読みごたえのある内容のものが多く読者諸兄姉にきっと御満足戴ける事と思う。リハビリテーション医療がチームワークによる働きかけをキーポイントとするならばすべての職種のレベルが平行して進む事が必要欠くべからざる条件となる。前田修氏の“リハビリテーション行政に期待する”には我国の医学部でリハビリテーションの教育が行われていない事が再度指摘された。義肢装具製作者の資格も問題であるし、養成校の開設と国家試験制度で規準をもうける事が急務である。PT・OT にしても量と質のバランスが未解決であり我々が色々な問題をかかえている間にもサービスを必要としている患者の数は増える一方である。確かに行政の体系化は国のレベルで真剣に考えられねばならぬ時代が来ている。

“PT・OT の処方めぐる”の座談会では今までになく深みのある討議がなされているが読者よりの御意見も是非御寄せ戴きたい。この中では

触れられていないが米国でも実際に処方の問題は大きな論議をよび依頼の形式という事に PT・OT 協会が宣言したものの、開業をしている PT・OT に一般の医師よりの referral が無くなり遂に悲鳴をあげて以前のシステム (order) に逆戻りした地域が多い。リハビリテーション医学そのものが常に流れているし米国でもここ 20 年学問的中心がニューヨークであったものがアトランタ、シカゴ、コロムブス、ワシントンなどに分散移行している感がある。今後 20 年アメリカのリハビリテーションのメッカはシカゴのノースウエスタン大学になるであろう。我国に於ても研究、臨床、教育面での建設的な競争のよき時代をもたらすには地道であっても我々リハビリテーションに従事するすべての者がそれぞれの立場で全力投球し、出来る限りの責任を果たし社会での位置づけを確立して行く他はないという実感を編集後記としたい。

編集顧問

天 児 民 和
九州労災病院長

五 味 重 春
府中リハビリ学院長

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院長

津 山 直 一
東京大学教授・整形外科
(五十音順, 以下同じ)

編集委員

上 田 敏
東大リハビリ部

荻 島 秀 男
都養育院リハビリ部

佐 藤 馨
神奈川県更生指導所

寺 山 久美子
都心障センター

野 本 卓
東医歯大診療室

鈴 木 明 子
府中リハビリ学院

福 屋 靖 子
東大リハビリ部

松 村 秩
国立リハビリ学院

編集同人

明 石 謙

赤 津 隆

内 村 静 子

梅 田 晃 昌

大 井 淑 雄

大 川 嗣 雄

大喜多 潤

鎌 倉 矩 子

紀 伊 克 昌

谷 岡 淳

富 岡 詔 子

奈 良 勲

福 田 修

藤 本 欽 也

前 田 守

松 本 妙 子

三 島 博 信

横 山 厳

和 才 嘉 昭

(担当 細田・岩元・松橋)